

令和5年度 第2回長崎市文化振興審議会 議事録 (第1部)

日 時：令和5年10月6日(金) 14:00～16:30

会 場：第1部 市役所7階 大会議室

第2部 市役所5階 第1・第2委員会室

- 次 第：第1部 1 新たな文化施設の整備等について
第2部 2 文化振興施策について
(1) 部活動地域移行について
(2) 国民文化祭について
(3) 長崎市自主文化事業の取組みについて

※第1部については、長崎都心まちづくり構想検討委員会と合同開催

次第 第1部 1 新たな文化施設の整備等について【意見交換】

【事務局（市民生活部・まちづくり部）】

（資料3 新たな文化施設の整備等について説明）

【委員】

文化施設とはどういうものを作ることを想定しているのか基本的なことを教えてほしい。また、本日は候補地を4案から1つ選ぶのか。4つあるので1～4と優先順位をつけるのか何を目標にされているのか。

【事務局（市民生活部）】

長崎市における文化施設はブリックホールや市民会館文化ホール、平和会館ホール、チトセピアホールなどを想像されるかと思う。基本計画のなかでも触れているが、まず1つ目は鑑賞の場として芸術性・専門性の高い公演、市民がつくりあげた芸術文化の作品、そういったことを楽しむことができる場。2つ目は、市民の芸術文化活動を支えて、海外と交流をしたり長崎らしい芸術文化を創造・発信できる場所にしたいと考えている。3つ目は、イベントや催し物があるのはもちろんだが、誰もがいつでも立ち寄ることができる開かれた空間として、芸術文化を通して人が集う場所を目指して新たな文化施設を建設したいと考えている。

【事務局（まちづくり部）】

4つの候補地の条件について資料3のP11に①～④を示しているが、そのほかに考えられる条件や視点を意見として承りたい。さらに第2回に向けて(1)～(7)までの評価項目を設けているので、それについても意見をいただきたい

【委員】

ブリックホールや市民会館文化ホール、チトセピアホールなど、文化施設が既にあることは分かったが、そのうえで新たな文化施設を建設するニーズについて調査し、さらに作るという理解でよいか。

【事務局（市民生活部）】

機能や規模は文化施設によってそれぞれ異なる。市民活動や興行利用など長崎市での必要性を議論したうえで基本計画に落とし込んでいる。

【委員】

候補地②（県営常盤駐車場）③（県営常盤南駐車場）については現駐車場であるため早く計画が進むと思うが、④中部下水処理場はどれぐらいの時間を要するのか。

【事務局（まちづくり部）】

候補地④については今年度中に現在の機能を廃止し、来年度から解体工事に入る想定である。文化施設整備には時間がかかると考えている。

【委員】

各敷地の面積を教えてください。また、②③が隣接されているのであればひとまとめにして使用することは考えられるのか。

【事務局（まちづくり部）】

①市庁舎跡地は約6,800㎡、②県営常盤駐車場は約5,700㎡、③県営常盤南駐車場は約11,900㎡、④中部下水処理場は約28,000㎡。②と③については、現時点で、それぞれ使用しており、その代替駐車場も必要になるため、同じ時期に整備することは難しい状況である。

【委員】

駐車場として使用しているため、一度に整備することが難しいのは分かるが、市役所跡地検討時の大きな課題は駐車場だった。②と③を文化施設利用者だけでなく一般の駐車場としても開放できたら良いと思うが一体化は難しいのか。

【事務局（まちづくり部）】

常盤南駐車場は大型クルーズ船の観光バスの駐車場として活用されている。松が枝ふ頭の2バス化で予定している観光バスの駐車スペースが整備できれば常盤南駐車場から機能に移転できるが、松が枝の整備はまだ先になり、検討時期が異なるため難しい状況。

【委員】

長崎市が保有している駅前の敷地は候補地として挙げられないのか。その理由も併せて教えてください。

【事務局（まちづくり部）】

区画整備事業の中で見出している土地で、たしかに5,000㎡以上であるが事業管理地である。区画整備事業費を賄うために売却をしなければならない土地である。その土地を使用する場合は、売却したうえで、購入された方が使用するもの。今回は、既に公が手にしている土地を候補地としている状況。

【委員】

不可能では無いと考える。長崎駅前にあるというのは立地として良い。松が枝の周辺は公共交通機関が不足していて車の渋滞の問題もあるため、駅前の土地を候補地として挙げていただきたい。

【事務局（まちづくり部）】

購入すれば候補地になる、ということでは私有地すべてがそういうことになる。既に公の土地であることが前提条件となる。

【委員】

文化振興審議会では、色々な選択肢がある中から選んだのではなく、市庁舎跡地という前提からの検討だった。今後も基本構想、基本計画をベースに検討していくということによいか。再度候補地を考え直す場合、どれぐらい時間がかかるのか。新たな文化施設の開館までブランクがあり、大人の5年と子どもの5年は異なる。まちづくりの視点から見た際、このエリアがおすすめというものはあるのか。

【事務局（まちづくり部）】

候補地が少ないことを本資料でご理解いただきたい。実現までのスピードが大きな論点と考える。次回審議会事務局が評価した結果をお示ししたい。新たな文化施設は、人をまちなかに導くひとつのツールとして考えている。

【委員】

市役所跡地も候補に入れていいのか。市役所跡地が最適で計画スピードも早いと考えている。

【事務局（まちづくり部）】

市役所跡地も候補地として挙げている。

【委員】

②③の駐車場案は、近隣に美術館があり文化の薫りがする一角になり得る。しかし、人の流れを生み出すポンプとして適しているかどうか。常盤南駐車場は観光バスの駐車場として重要な役割を担っている。その場合、新しい駐車場の計画が進まない限りそこが空くことはない。旧市役所跡地として計画を進めていたが、検討が中断しているため2026年度中の完成は難しいと思うが、県営駐車場の検討を待っていると2030年度以降になるのではと考える。中部下水処理場跡地は、人の流れを生むためには全く使えない場所と思う。来年度からの取り壊しが決定しているのであれば、2027年度に完成できると思うが、その他の視点で見た際に良い候補地に映らないのが正直なところである。

【事務局（市民生活部）】

長崎市内における文化エリアの視点、まちなかに活気を生み出すという視点でご意見をいただいた。検討材料とさせていただきたい。

【委員】

都心まちづくり構想検討委員会の中でも市役所跡地は重要な場所であり、文化施設ができる想定で回遊性に関する話を進めていた。仮に市庁舎跡地でなくなった場合、回遊性を生み出すための方策について再度議論を進めないといけない。なぜ市庁舎跡地を見直すことになったのか。

【事務局（まちづくり部）】

市長が代わり、新たな文化施設の候補地を決定するプロセスが不足していたのではという意見があった。建設地の妥当性を改めて確認し、最終決定させていただきたい。市庁舎

跡地に問題があった訳ではない。

【委員】

市庁舎跡地に何か問題がある、欠けているという指摘は市長からはないということか。全てフラットで考えて良いのか。

【事務局（まちづくり部）】

特に問題があるということではない。

【委員】

ホール機能が回遊性に及ぼす効果を示したら納得してもらえるのか。回遊性向上のための評価基準はあるのか。

【事務局（まちづくり部）】

評価は、定性的な評価になると考えられる。第2回審議会において、まちなかへの回遊性向上など都心部への活性化への貢献度について検討したい。

【委員】

公会堂取り壊しの段階から、市役所跡地をどうすれば一番よいのかずっと考えてきた。市役所跡地でのイベント、子どもたちの寄れる場所、浜の町までの集客力なども踏まえたうえで計画をまとめ、設計に入る段階だった。自分の頭の中ではそれがストップになっていたと思っていた。今日、市役所跡地が候補地に挙がっていたのに驚いたが、候補地を再検討する理由が分からなかった。まちづくりのなかで市役所跡地に建設することに何か問題があったのか。

【事務局（まちづくり部）】

市庁舎跡地に問題があった訳ではない。市長より幅広い視点で敷地を再検証したいと話があり、双方の方々からの視点でジャッジしていくこととなった。予算を無駄遣いしないためにも、より効果的な場所に設置したい。再検証の結果、市役所跡地になったとしても問題はない。

【委員】

市役所跡地に建設していただくほうが早いと思う。市長の会見があったとき、公会堂の問題から関わってきて裏切られたという気持ちでいる先生方もいる。市役所跡地はだめだと思っていたが、候補地に入っているため早く建設してほしい。子どものためもそうだが、高齢の方もいる。私自身も3年後にできることを楽しみにしていた。なぜ市役所跡地が駄目なのかみんな理由が分かっていない。どうしてもというなら③案かと思うが、せっかくこれまで集まって、経費もかけてきたのだから、できれば早く建設できる市役所跡地が良いと思う。

【事務局（市民生活部）】

今いただいたご意見をしっかり踏まえたうえで次回に向けて評価をしていく。色々な観

点からの評価になると思う。

【委員】

県庁舎跡地は条件におさまると思うが、候補地となっていない理由を説明してほしい。

【事務局（まちづくり部）】

県庁舎跡地については、かつては県と協議をしていたが建設スピードの観点より旧市庁所跡地と表明した。県庁舎跡地では令和2年度に埋蔵文化財調査が行われ、昨年7月に県庁舎跡地の基本構想が取りまとめられた。ホール機能は含まれておらず、埋蔵文化財に配慮した平屋の施設という方針が出された。このような土地の利用方針が決まっているため、新たな文化施設の候補地から外している。

【委員】

市長も県知事も新しく変わったので、どうかなと思った。県庁舎跡地で講演会等をした後、銅座にも近いので打ち上げにもすぐ行けるのかなと思ったが、残念。

【委員】

中部下水処理場はブリックホールに近いので、まちなかエリアの活性化のためには①②③案が良い。これまでの検討経緯も踏まえ、①の市庁舎跡地で話を進めていただきたい。

【委員】

②③の場所は、県有地であるため市が購入しないといけない。市有地の①、④はいいが、②と③はそういう視点も検討に入れておかないと財政面が厳しい状況になる。資材の高騰のことは書いているが、土地もかなり上がっている。5,000㎡以上となるとかなりの市の負担があるのではないかと思った。

【事務局（まちづくり部）】

県有地について、もし本当に使う場合は、用地買収をして使う。

【委員】

資料3、P10の図は、各エリアに特色を持たせてランドデザインができている図なのか。特色があるのであれば、その特色に合わせて文化施設を設置すべきという意見があったと思う。ランドデザインは人の動きだけではない。美術館を含めた文化的な中心地がまちの中でどういう機能を果たしているかがランドデザインを考える際に重要。回遊性だけでなく文化芸術が社会に与える機能もある。③岬のエリアには唯一メインストリートの整備とあるが、これがどういう機能を持っているのか。それが新たな文化施設と合っているとお考えなのか。メインストリートに立地する場合、新たな文化施設に新たに付加できる機能があるのであれば審議会で議論できると思う。

【事務局（まちづくり部）】

P.10はエリア間の回遊を示したもの。P.9はエリアの特徴を示したもの。岬のエリアは人を吸い上げて送り出すポンプ機能を果たさなければならない。岬のエリアはこれまで市役

所があったため相当数の人が来ていたが、空き店舗が増えてきていて、このままでは空洞ができてしまう。そのために新たな集客施設が必要だと考えている。メインストリートについては、沿道からの賑わいを生み出す「ほこみち」が指定された。道路を活用した賑わいを生み出していきたいと考えている。

【委員】

県庁跡地から出島、さらに県美術館もあるため、諏訪神社からの文化的な軸も考えていただきたい。まさにこのストリートのなかでの文化施設は分かりやすい軸線だと考える。

【委員】

旧市役所跡地の奥には歴史文化博物館があり、旧県庁跡地の先には出島や美術館がある。しかし、現状では歴史博物館に至る道を歩いてみたいと思えない。そこに回遊性など今まで気が付かなかったものが隠れているのではないか。その中で道路整備の方針があることは良いニュースだと思う。旧市役所跡地に新たな文化施設が建設されるのであれば、眼鏡橋までも楽しい道にしてほしい。歴史文化博物館までの道のりも歩きやすく、長崎市内から歩いて行ける距離にコンパクトにまとまっているので、歩いてみたいと観光客、市民の皆さんが思えるようなまちづくりにしてほしい。文化施設単体、観光施設単体ではなく、間の道路も非常に活用価値があると思う。

【事務局（市民生活部）】

それぞれの会長、委員長からもご意見を頂戴したい。

【長崎市文化振興審議会会長】

懸念点は2点。建設まで練習場がない中で、ご高齢の方はさらにご高齢に、子どもは成長し、時間が無い状況。これ以上時間をかけていただきたくない。また、計画が停止したことで、資材の高騰や人手不足など状況がよくなる見通しは無いように思う。予算の問題で練習室が減ったり、リハーサル室がなくなると本末転倒。迅速な結論、設計へと進んでいただきたい。

【長崎都心まちづくり構想検討委員会委員長】

文化施設というのは集客拠点となるポテンシャルを持っている。3点ほど意見を申し上げたい。1点、都心部に賑わいを生み出す施設として何がどこに配置されているか改めて確認したうえで、文化施設の位置づけを考えていく必要がある。例えば、県営駐車場近くには美術館や水辺の森公園、中部下水処理場近くにはスタジアムやブリックホールがある。施設の配置と現状の整理が必要であり、どの部分の回遊性を強化したいのか、という観点での検討が必要。2点目、まちの中での滞在期間を生み出すということは経済的にもメリットがあると考え。鑑賞した方が帰りに食事をしていくなど、そうした場が周囲にあるのかどうか。それが回遊性向上にもつながる。メインストリート整備とあったが、沿道での活動と文化施設での活動が一体化することで相乗効果があるのではないかと考える。周辺施設との連携によって文化施設の機能を最大限に発揮できる。最後に、文化施設の機能の中で「誰もがいつでも立ち寄ることができる開かれた空間」に期待をしている。市民の方が普段使いできる滞留空間はまちの中で大事な場所。文化を広く捉えた観点から賑わい

づくりの可能性を考えられると思う。

以上